

児童朝会 講話 令和4年 2月 7日
№27 「ももたろう」

おはようございます。

校長先生の声は、みなさんの心に届いていますか？

さて、この間の節分で太巻き、お寿司を食べた人もいるかもしれませんが、そのときどちの方角に向いてたべましたか。そう、今年の方角は北北西でした。いま、皆さんのいる教室の道路側が北ということで、北北西はそれよりすこしだけ、左の方にいきます。これを昔の人はいのししの方角と呼んでいました。

ちなみに、北はねずみ、少し右にいくと丑、さらに右にいくと寅、そして黒板の方角はうさぎ...このように、今は北とか南という言い方ですが、昔の人はねずみ、うし、とら、うさぎと動物の名前で方角を言っていました。うさぎの次はなにかわかりますか？そう、たつですね。そしてそのつぎはへび。気がつきましたか？

一般的には子丑虎卯辰巳午未申酉戌亥の干支とよばれ、年代をあらわすのに使われる12匹の動物ですが、方角にもあてはめられています。

そして、このなかで丑と寅の方角はなんと鬼が入ってくる方角と言い伝えられました。教室で言うとは黒板の左のほうですね。あくまでも言い伝えで、実際に鬼は入ってきませんので安心してください。しかも、ちゃんと鬼を退治してくれる方角もあります。教室の後ろの出入り口、そう、さっきの方角の反対方向、干支でいいますと、さる、とり、いぬの方向です。あれ？この3匹の動物、何かにでてきますね？何のお話しにでてきますか？

そう、ももたろうですね。このお話はみなさんしっていますか？少しまわりの人と聞き合ってみてください。あらすじを1分間で伝え合ってくださいね。

おじいさんは山へ柴刈りに行き、おばあさんは川で洗濯をしていると、桃が流れてきて、その桃からうまれた桃太郎が、大きくなって、猿、犬、雉をきびだんごで家来にして、鬼ヶ島にいき鬼を退治して、宝物を持ち帰った、めでたしめでたしというお話ですね。

実は校長先生は、小さいときにこのお話を聞いて、なんでこの3匹の動物を家来にしたのかずっとわからなかったのですが、最近調べてようやくわかりました。

みなさんはこのももたろうのお話を聞いて、不思議だなあと思うところはありませんか？

少しまわりの人と聞き合ってみてください。

たくさんでたと思います。もしよかったら、そのお話を校長室前のボードにつぶやいてみてください。

最後に校長先生の疑問をみなさんにお話しします。ももたろうは、鬼ヶ島で鬼を退治するのですが、もう少し良い方法はなかったのかなあと思います。みなさんはどう思いますか？こちらもボードにつぶやいてみてください。

これで校長先生のお話を終わります。最後まで静かに聞いていただき、ありがとうございました。

なぜきびだんごを使わない

なぜ鬼を退治した

なぜこんなに人の心に残っているのか